

平成25年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月14日

上場会社名 ジョルダン株式会社 上場取引所 大
 コード番号 3710 URL <http://www.jorudan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 俊和
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画室長 (氏名) 岩田 一輝 (TEL) 03-5369-4051
 四半期報告書提出予定日 平成25年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第2四半期の連結業績 (平成24年10月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第2四半期	2,280	△10.2	250	△22.9	259	△22.5	36	△78.7
24年9月期第2四半期	2,539	7.2	325	0.3	334	1.1	170	14.1

(注) 包括利益 25年9月期第2四半期 60百万円(△64.5%) 24年9月期第2四半期 168百万円(12.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第2四半期	6.96	—
24年9月期第2四半期	33.00	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年9月期第2四半期	4,340	3,446	78.0
24年9月期	4,781	3,477	70.5

(参考) 自己資本 25年9月期第2四半期 3,385百万円 24年9月期 3,370百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	0.00	—	8.00	8.00
25年9月期	—	0.00	—	—	—
25年9月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年9月期の連結業績予想 (平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,350	△10.5	530	△5.8	535	△6.3	320	100.8	61.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

平成25年2月14日に公表いたしました連結業績予想を修正しております。具体的な内容につきましては、本日公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) イーツアー株式会社、除外 1社(社名) 株式会社エクスプレス・コンテンツバンク

(注) イーツアー株式会社については、みなし取得日を第1四半期連結会計期間末としているため、当第2四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。株式会社エクスプレス・コンテンツバンクについては、みなし売却日を第1四半期連結会計期間末としているため、第1四半期連結会計期間の損益計算書のみ連結しております。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期2Q	5,255,000株	24年9月期	5,255,000株
② 期末自己株式数	25年9月期2Q	35,403株	24年9月期	35,403株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期2Q	5,219,597株	24年9月期2Q	5,180,333株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績等は、今後の経済情勢、市場動向に関わるリスクや不確定要因等により変動する可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報等	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成24年10月1日～平成25年3月31日）におけるわが国経済は、一部に弱さが残るものの持ち直しの動きが見られ、先行きについても輸出環境の改善や経済・金融対策の効果等を背景に景気回復に向かうことが期待される状況となっております。

情報通信業界におきましては、企業のソフトウェア投資や情報サービス業及びインターネット附随サービス業の売上高は前年同四半期（平成23年10月1日～平成24年3月31日）と比べ横ばいから微増という状況にあります。このような中、スマートフォンの急速な普及に加え、無線LANやモバイルデータ通信の高速規格の普及等、モバイル情報通信に関する市場環境の変革が加速してまいりました。

当社グループにおきましても、この市場環境の変革に対応し、更なる事業展開の基盤を確立してまいりました。「乗換案内」の各種インターネットサービス（携帯電話サイト・スマートフォンアプリ・スマートフォンサイト・PCサイト）の検索回数は平成25年3月には月間約2億2,000万回となっております、多くの方々に広くご利用いただいております。

このような環境の中で、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は2,280,956千円（前年同四半期比10.2%減）、営業利益は250,847千円（前年同四半期比22.9%減）、経常利益は259,189千円（前年同四半期比22.5%減）、四半期純利益が36,345千円（前年同四半期比78.7%減）という経営成績となりました。

売上高につきましては、マルチメディア事業セグメントにおける売上高が223,484千円（前年同四半期比48.9%減）、その他セグメントにおける売上高が93,773千円（前年同四半期比33.3%減）となったこと等により、前年同四半期と比べ減少いたしました。利益につきましては、前年同四半期と比べ、マルチメディア事業セグメントにおいては損失が減少しておりますが、乗換案内事業セグメント及びその他セグメントにおいては利益が減少しており、営業利益及び経常利益は前年同四半期と比べ減少しております。四半期純利益につきましては、それらの影響に加え、子会社株式売却益の発生等の一方でのれん償却額の発生等があり、上記の結果となっております。

なお、前連結会計年度末より株式会社グルメリブネットワーク（GPN）を、第1四半期連結会計期間末よりイーツアー株式会社を連結の範囲に含めており、前者は第1四半期連結会計期間から、後者は第2四半期連結会計期間から、それぞれ損益を連結しております。また、株式会社エキスペス・コンテンツバンク（EXCB）が第1四半期連結会計期間末より連結の範囲から外れ、持分法適用の関連会社となったため、同社については第1四半期連結会計期間のみ損益を連結しております。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(乗換案内事業)

乗換案内事業は全体として、売上高は前年同四半期と同程度となったものの、営業利益は前年同四半期と比べ減少いたしました。製品・サービス別の状況を踏まえた主な変動要因は以下の通りです。

モバイル向けの事業につきましては、モバイル向け有料サービスである「乗換案内NEXT」とスマートフォン向け有料版アプリケーション「乗換案内Plus」を合わせた会員数は、当第2四半期連結累計期間末には約59万人となっております。その結果、前年同四半期と比べ売上高は減少しておりますが、前連結会計年度末（平成24年9月末）と比べ会員数は増加しております。なお、EXCBが連結の範囲から外れたことにより、同社分の売上高が減少しております。

一方で、旅行関連事業に関しましては、業務の見直し及び効率化等を進めた影響で当社分の売上高は前年同四半期と比べ減少しておりますが、イーツアーを連結の範囲に含めたことにより同社分の売上高が増加し、旅行関連事業全体としても前年同四半期と比べ売上高はやや増加しております。

また、GPNの損益を新たに連結したことにより、前年同四半期と比べグルメリブ関連事業の売上高が新たに計上されております。

以上の結果、乗換案内事業全体としては売上高1,982,511千円（前年同四半期比0.4%減）となりました。営業利益につきましては、利益率の高い事業の売上高の減少や新規連結子会社に係る販売費及び一般管理費の増加等の影響により、490,386千円（前年同四半期比18.3%減）となりました。

(マルチメディア事業)

マルチメディア事業では、出版につきましては、総合オピニオン誌『表現者』を発行しているほか、「ジョルダンブックス」として書籍を発売しております。当第2四半期連結累計期間においては、スマートフォンと雑誌が連動した新しいスタイルの料理マガジン『キレイ食』の刊行等を新たに行っております。またモバイル向けには、「ジョルダンニュース!」等を提供しております。

EXCBが連結の範囲から外れた影響等により、全体として売上高は前年同四半期と比べ大きく減少しております。一方で、営業費用も大きく減少しており、前年同四半期と比べ営業損失は減少しております。

以上の結果、売上高223,484千円（前年同四半期比48.9%減）、営業損失81,097千円（前年同四半期は137,425千円の損失）となりました。

(その他)

受託ソフトウェア開発等におきまして、前年同四半期にはそれ以前から着手していた比較的大型の開発案件の完了等がありましたが、当第2四半期連結累計期間においてはそういったものが無く、前年同四半期と比べた売上高は減少しております。それに伴い、損益につきましても、当第2四半期連結累計期間におきましては営業損失が発生しております。

以上の結果、売上高93,773千円（前年同四半期比33.3%減）、営業損失2,720千円（前年同四半期は33,100千円の利益）となりました。

なお、上記のセグメント別の売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、営業利益は、配賦不能営業費用及びセグメント間の内部取引による営業費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末（平成24年9月末）と比較しますと、資産は440,819千円減の4,340,860千円、負債は410,028千円減の894,179千円、純資産は30,790千円減の3,446,681千円となりました。

資産は、流動資産につきましては、624,892千円減の3,185,967千円となりました。これは、現金及び預金が515,504千円減の2,235,321千円、受取手形及び売掛金が223,745千円減の672,764千円となったこと等の影響が、その他に含まれる前渡金が162,958千円増の174,946千円となったこと等の影響を上回ったことによるものです。受取手形及び売掛金につきましては、主に株式会社エクスプレス・コンテンツバンク（EXCB）が連結の範囲から外れたことにより、大きく減少しております。また、その他に含まれる前渡金が大きく増加しているのは、イーツアー株式会社を第1四半期連結会計期間末から連結の範囲に含めたこと等によるものです。

固定資産につきましては、184,073千円増の1,154,893千円となりました。これは、有形固定資産が31,027千円増の214,549千円、無形固定資産が12,334千円減の318,638千円、投資その他の資産が165,379千円増の621,705千円となったことによるものです。有形固定資産が増加しているのは、主に建物・土地の取得によるものです。無形固定資産が減少しているのは、のれんが34,014千円減の19,592千円となった影響が、ソフトウェアが20,710千円増の296,548千円となったこと等の影響を上回ったことによるものです。のれんは、EXCBが連結の範囲から外れたこと等により減少しております。投資その他の資産が増加しているのは、投資有価証券が129,000千円増の351,168千円、敷金及び保証金が40,134千円増の231,559千円となったこと等によるものです。投資有価証券が増加したのは、EXCBが連結の範囲から外れ持分法適用の関連会社となったこと等によるものです。敷金及び保証金が増加したのは、主にイーツアーを連結の範囲に含めたことによるものです。

負債は、流動負債につきましては、255,968千円減の881,616千円となりました。これは、支払手形及び買掛金が69,431千円減の235,390千円、未払法人税等が123,878千円減の96,230千円、賞与引当金が56,539千円減の32,600千円となり、加えて前連結会計年度末にあった1年内返済予定の長期借入金113,394千円が無くなったこと等の影響が、その他に含まれる前受金が172,446千円増の330,029千円となったこと等の影響を上回ったことによるものです。支払手形及び買掛金が減少しているのは、主にEXCBが連結の範囲から外れたことによるものです。未払法人税等が減少しているのは、主に法人税等の減少によるものです。賞与引当金が減少しているのは、主に賞与の支払によるものです。1年内返済予定の長期借入金については、EXCBが連結の範囲から外れたこと及び株式会社グルメびあネットワーク（GPN）において借入金を繰上返済したこと等により無くなっております。また、その他に含まれる前受金が大きく増加しているのは、主にイーザーを連結の範囲に含めたことによるものです。

固定負債につきましては、154,060千円減の12,563千円となりました。これは、前連結会計年度末にあった長期借入金157,723千円が無くなったこと等によるものです。これは、EXCBが連結の範囲から外れたこと及びGPNにおいて借入金を繰上返済したこと等によるものです。

純資産は、株主資本が5,411千円減の3,371,994千円、その他の包括利益累計額が20,112千円増の13,020千円、少数株主持分が45,492千円減の61,665千円となりました。株主資本が減少しているのは、四半期純利益36,345千円を剰余金の配当41,756千円が上回った影響により、利益剰余金が5,411千円減の2,824,739千円となったことによるものです。その他の包括利益累計額が増加しているのは、主に為替換算調整勘定が16,166千円増の15,187千円となったことによるものです。少数株主持分が減少しているのは、主にEXCBが連結の範囲から外れたことによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における連結ベースの現金および現金同等物は、前連結会計年度末と比べ77,658千円増の2,205,468千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは109,100千円の収入（前年同四半期比66.6%減）となりました。前年同四半期と比べての変動の要因は、税金等調整前四半期純利益が160,351千円減の166,849千円、賞与引当金の減少額が52,744千円増の56,234千円、法人税等の支払額が84,761千円増の220,185千円となった影響が、のれん償却額が105,894千円増の123,763千円、売上債権の増加額が71,317千円減の17,089千円となった影響を上回ったこと等であります。賞与引当金の減少額が増えた主要因は、当社において賞与の支払を年1回冬にまとめて行う制度に変更したことです。法人税等の支払額が増えた主要因は、前連結会計年度末において未払法人税等が増加していたことです。のれん償却額は、イーザーの株式を取得し連結子会社としたことで発生したのれんを一時に償却した影響等により、大きく増加しております。売上債権の増加額が減った主要因は、回収までの期間が比較的長い携帯電話キャリア経由の売上高が減少していることです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは97,160千円の収入（前年同四半期比19.4%減）となりました。前年同四半期と比べての変動の要因は、前年同四半期に無かった投資有価証券の取得による支出が57,120千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が130,375千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出が120,619千円となり、短期貸付けによる支出が55,000千円増の60,000千円となった影響が、定期預金の預入による支出が297,536千円減の17,595千円となった影響を上回ったこと等であります。連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出は、イーザーの株式を取得し連結の範囲に含めたことにより発生しております。連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出は、EXCBの株式を売却し連結の範囲から外れたことにより発生しております。定期預金の預入による支出及び定期預金の払戻による収入については、主に定期預金の満期によ

る払戻及び再預入により発生しておりますが、前年同四半期と異なり当第2四半期連結累計期間においては大部分を再預入していないため大きな金額の差が生じております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは148,032千円の支出(前年同四半期は15,664千円の収入)となりました。前年同四半期と比べての変動の要因は、前年同四半期にあった長期借入れによる収入が110,000千円が無くなり、加えて長期借入金の返済による支出が80,870千円増の107,007千円となったこと等です。長期借入金の返済による支出が増えた主要因は、GPNにおいて借入金を繰上返済したことです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年2月14日に公表いたしました連結業績予想を修正しております。具体的な内容につきましては、本日公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、イーツアー株式会社の株式を新たに取得したことにより、連結の範囲に含めております。なお、平成24年12月31日をみなし取得日としたため、当第2四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。

また、第1四半期連結会計期間において、株式会社エクスプレス・コンテンツバンクの株式を一部譲渡したことにより、持分比率が低下し関連会社となったため連結の範囲から除外しておりますが、平成24年12月31日をみなし売却日としたため、第1四半期連結会計期間の損益計算書のみ連結しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年10月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,750,825	2,235,321
受取手形及び売掛金	896,510	672,764
商品及び製品	6,111	3,585
仕掛品	936	5,980
原材料及び貯蔵品	353	714
繰延税金資産	94,382	47,502
その他	90,119	231,275
貸倒引当金	△28,378	△11,179
流動資産合計	3,810,859	3,185,967
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	59,335	69,905
機械装置及び運搬具(純額)	3,692	2,955
工具、器具及び備品(純額)	70,093	60,086
土地	50,400	81,602
有形固定資産合計	183,521	214,549
無形固定資産		
のれん	53,606	19,592
ソフトウェア	275,837	296,548
その他	1,528	2,498
無形固定資産合計	330,972	318,638
投資その他の資産		
投資有価証券	222,167	351,168
敷金及び保証金	191,425	231,559
長期貸付金	5,000	5,000
長期滞留債権	4,539	3,500
長期預金	—	4,200
繰延税金資産	30,798	24,562
その他	11,767	10,048
貸倒引当金	△9,372	△8,333
投資その他の資産合計	456,325	621,705
固定資産合計	970,820	1,154,893
資産合計	4,781,679	4,340,860

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	304,821	235,390
1年内返済予定の長期借入金	113,394	—
未払費用	175,822	141,810
未払法人税等	220,108	96,230
未払消費税等	18,191	13,331
賞与引当金	89,139	32,600
役員賞与引当金	8,200	2,150
返品調整引当金	1,470	1,449
ポイント引当金	27,580	4,579
その他	178,858	354,075
流動負債合計	1,137,585	881,616
固定負債		
長期借入金	157,723	—
ポイント引当金	—	3,663
その他	8,900	8,900
固定負債合計	166,623	12,563
負債合計	1,304,208	894,179
純資産の部		
株主資本		
資本金	277,375	277,375
資本剰余金	287,290	287,290
利益剰余金	2,830,150	2,824,739
自己株式	△17,410	△17,410
株主資本合計	3,377,405	3,371,994
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△6,113	△2,166
為替換算調整勘定	△978	15,187
その他の包括利益累計額合計	△7,092	13,020
少数株主持分	107,157	61,665
純資産合計	3,477,471	3,446,681
負債純資産合計	4,781,679	4,340,860

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
売上高	2,539,035	2,280,956
売上原価	1,226,280	1,090,606
売上総利益	1,312,755	1,190,350
返品調整引当金戻入額	3,283	1,470
返品調整引当金繰入額	2,124	1,449
差引売上総利益	1,313,914	1,190,371
販売費及び一般管理費	988,684	939,524
営業利益	325,229	250,847
営業外収益		
受取利息	227	567
受取配当金	65	1,185
為替差益	1,228	4,544
助成金収入	7,920	2,300
雑収入	894	1,520
営業外収益合計	10,335	10,117
営業外費用		
支払利息	831	1,117
持分法による投資損失	—	538
雑損失	114	119
営業外費用合計	945	1,775
経常利益	334,619	259,189
特別利益		
固定資産売却益	—	800
子会社株式売却益	—	22,576
投資有価証券売却益	1,000	276
負ののれん発生益	1,550	—
特別利益合計	2,550	23,652
特別損失		
固定資産除却損	5,866	1,163
関連会社株式評価損	4,102	—
のれん償却額	—	114,829
特別損失合計	9,968	115,992
税金等調整前四半期純利益	327,201	166,849
法人税等合計	158,310	127,034
少数株主損益調整前四半期純利益	168,890	39,815
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△2,082	3,469
四半期純利益	170,972	36,345

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	168,890	39,815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	4,039
為替換算調整勘定	—	16,166
その他の包括利益合計	—	20,206
四半期包括利益	168,890	60,021
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	170,972	56,458
少数株主に係る四半期包括利益	△2,082	3,563

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	327,201	166,849
減価償却費	81,218	97,486
のれん償却額	17,868	123,763
持分法による投資損益(△は益)	—	538
貸倒引当金の増減額(△は減少)	679	△2,851
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△1,159	△21
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2,470	2,862
賞与引当金の増減額(△は減少)	△3,490	△56,234
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,300	△6,050
受取利息及び受取配当金	△292	△1,752
支払利息	831	1,117
売上債権の増減額(△は増加)	△88,407	△17,089
前受金の増減額(△は減少)	△22,786	△37,831
たな卸資産の増減額(△は増加)	24,599	△2,504
仕入債務の増減額(△は減少)	37,224	24,297
前渡金の増減額(△は増加)	5,500	8,340
未払費用の増減額(△は減少)	29,076	28,630
未払消費税等の増減額(△は減少)	7,873	△5,981
投資有価証券売却損益(△は益)	△1,000	△276
関連会社株式評価損	4,102	—
子会社株式売却損益(△は益)	—	△22,576
固定資産売却損益(△は益)	—	△800
負ののれん発生益	△1,550	—
その他	47,228	28,731
小計	462,889	328,650
利息及び配当金の受取額	292	1,752
利息の支払額	△831	△1,117
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△135,423	△220,185
営業活動によるキャッシュ・フロー	326,926	109,100

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△315,132	△17,595
定期預金の払戻による収入	612,892	612,459
有形固定資産の取得による支出	△52,386	△52,977
無形固定資産の売却による収入	—	3,600
無形固定資産の取得による支出	△83,606	△54,520
投資有価証券の取得による支出	—	△57,120
投資有価証券の売却による収入	4,500	1,520
関係会社株式の取得による収入	△7,003	—
子会社株式の取得による支出	—	△38,416
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△130,375
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△120,619
短期貸付けによる支出	△5,000	△60,000
短期貸付金の回収による収入	—	5,413
敷金及び保証金の差入による支出	△33,778	△7,412
敷金及び保証金の回収による収入	—	13,204
投資活動によるキャッシュ・フロー	120,485	97,160
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	110,000	—
長期借入金の返済による支出	△26,137	△107,007
リース債務の返済による支出	△665	—
配当金の支払額	△41,435	△41,025
少数株主への配当金の支払額	△2,762	—
自己株式の取得による支出	△20,335	—
子会社の自己株式の取得による支出	△3,000	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,664	△148,032
現金及び現金同等物に係る換算差額	969	19,430
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	464,045	77,658
現金及び現金同等物の期首残高	1,074,022	2,127,810
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,538,067	2,205,468

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	乗換案内事業	マルチ メディア事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,991,288	437,634	2,428,922	110,112	—	2,539,035
セグメント間の内部 売上高又は振替高	40	—	40	30,540	△30,580	—
計	1,991,328	437,634	2,428,963	140,653	△30,580	2,539,035
セグメント利益 又は損失(△)	600,350	△137,425	462,924	33,100	△170,795	325,229

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託開発ソフトウェア業、情報関連機器リース業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△170,795千円には、のれん償却額△17,868千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△152,926千円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	乗換案内事業	マルチ メディア事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,982,318	223,484	2,205,802	75,154	—	2,280,956
セグメント間の内部 売上高又は振替高	192	—	192	18,619	△18,812	—
計	1,982,511	223,484	2,205,995	93,773	△18,812	2,280,956
セグメント利益 又は損失(△)	490,386	△81,097	409,289	△2,720	△155,721	250,847

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託開発ソフトウェア業、情報関連機器リース業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△155,721千円には、のれん償却額△8,934千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△146,787が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間末において、株式会社エキスプレス・コンテンツバンクの株式を一部譲渡し連結の範囲から除外したことに伴い、のれんのコ額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象による当第2四半期連結累計期間におけるのれんの減少額は、44,672千円でありま
す。

また、当第2四半期連結会計期間末において、連結子会社であるイーツアー株式会社の株式を追加
取得したことに伴い、のれんのコ額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象による当第2四半期連結累計期間におけるのれんの増加額は、19,592千円でありま
す。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。